

秋田市の乳幼児健診における効果的な連携システムに関する研究

幸坂 徳子, 保坂 由紀子, 池田 小百合
出雲 啓子, 赤田 真貴子

要約：前年度の報告で、乳幼児健診における連携の必要性及びリスクのある児に対する支援体制について問題提起されたため、医療機関及び保健所との連携に視点をおき、両者に対する調査、検討を行った。

見出し語：乳幼児健診の事後管理、リスク児に対する支援体制、医療機関及び保健所との連携

研究方法：医療機関に対しては乳幼児健診に関する意識調査をアンケートにより実施し、保健所とは特に1歳6か月児健診から3歳児健診までの連携について検討を重ねた。

結果：

1) 乳幼児健診従事医師に対する意識調査

平成2年9～10月 乳幼児健診従事
医師27名 回収率 70.4% (19名)

調査結果①母子健康手帳に添付している健診票は診療や健診の参考になる94.7%。

健診に基づく市の事後管理の流れは現行のままでよい84.2%、であった。

②要望として「精密検査結果を連絡してほしい」

「保健婦による訪問の指導内容を知りたい」

「ケース検討の機会がほしい」などがあげられた。

2) 保健所との連携についての現状分析

①平成元年度から1歳6か月児精神発達精密健診が保健所との連携で実施され、関係機関と役割分担して事後管理が行なわれている。②平成元年度より1歳6か月児健診事後指導として心理相談を市単独で実施しているが、従事スタッフが市保健婦のみであることから、保健所と連携してより充実した専門スタッフによる指導の場が望まれる。③3歳児健診における過去の健診データが、母子健康手帳のみでよいか検討した。3歳児健診で、ことばや行動発達、養護

秋田市役所 保健衛生課 (Public Health and Sanitation Section AKITA CITY HALL)

面で要管理となった児の過去の健診歴をみると、約7割が問診等ですでにチェックされている。しかし保健所との連携が充分でなかったため、健診の情報が活用できず、さらに市でも健診後の追跡がなされていなかった。

考察：

1) 医療機関との連携について

乳幼児健診従事医師に対する意識調査よりほとんどの医師は現行の連携体制に満足していることがわかったため、現体制を大きく変える必要はないと考えられる。一方、医師からの要望により次の点が課題となる。

①乳幼児健診の事後措置として保健婦の訪問が指示された場合、連絡用紙に基づき健診医に状況を連絡し、協議しながら事後管理を行っていく。

②市保健婦は訪問指導を行った場合、母子健康手帳に指導内容を明記することを徹底させる。

③精密検査結果の報告が、実施主体の市と健診医の双方に返されるよう体制を整えていくことが望ましい。

2) 保健所との連携について

① 現行の事業の中での連携

(7) 市の心理相談対象児を、保健所の幼児健康教室へ向けていく。現行の心理相談は、市保健婦のみで実施していること、また形式が個別指導のみであるため、親が相談の必要性を感じないと来相しにくいこと、さらに、時間予約制で他の母子との交流ができないなどの欠点もあるため、現行の心理相談以上に事後指導の場として期待できる。

(イ) 市乳幼児健診データを3歳児健診及び3歳児精密健診に活用する。

1歳6か月児健診で要管理になったケースや、3歳児精密健診該当者の過去の健診データを市

から保健所に送ることにより、健診及び精密健診での判定指導をより適切に行う。

② リスクのある児に対する支援の連携

リスクのある児とは、将来精神発達及び養育上の問題を生ずる可能性のある児のことである。現状分析により、所見なしでも、精神発達及び養育上の問題をアンケート等で訴えているケースが多いことがわかった。これらのケースは、リスクのある児としてとらえ、事後管理していくことが必要であるが、現在精神発達に関することでチェックされると補助アンケートを実施していることから、今後は補助アンケート該当者に対する支援体制を整えていくことが必要である。

(7) 3歳児健診における1歳6か月児健診補助アンケートの活用

1歳6か月児健診の補助アンケートを健診票と同じサイズの2部複写とし、1部は市控え、1部は本人控えとして母子健康手帳に添付する。これにより3歳児健診時に情報の一つとして活用できる。

(イ) 2歳児ペーパースクリーニングについて

1歳6か月児健診でことばや精神面でチェックされた児に対し、2歳頃にペーパースクリーニングを実施し、事後指導の充実を図る。

③ 乳幼児健診記録の一括化

市実施の1歳6か月児健診までの記録と保健所実施の3歳児健診の記録を一貫管理することにより、継続指導を行なっていくことが今後の課題となる。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:前年度の報告で、乳幼児健診における連携の必要性及びリスクのある児に対する支援体制について問題提起されたため、医療機関及び保健所との連携に視点をおき、両者に対する調査、検討を行なった。